

歴史を訪ねて

比布のイチゴ栽培は古く、大正10年ごろから太田山付近の数戸の農家が自家用として植えていたといわれる。大正末期から昭和初期には、村内や旭川市などで小売販売され畑作農家の現金収入源となっていた。

イチゴの歴史

昭和10年ごろから旭川市への市場出荷が始まり、小売店や消費者から「比布苺」の銘柄で呼ばれていた。

昭和25年のイチゴの作付面積は39畝となり、30年ごろには生産者も栽培面積も増加したが、40年ごろになると長年の連作障害により病害虫が発生し、生産量の低下とともに栽培面積も減少していった。

町では44年に10号沢開拓地のイチゴ育苗成ほ場設置に対し助成を行った。また48年に原種ほ設置の道指定を受け、北2線8号の町有地に町営採苗ほを設けてイチゴ生産団地の育成を行った。

また、46年ごろからはハウスイチゴ栽培の研究が始まり、翌47年5月に旭川の市場へ500パックが初出荷された。57年6月に町が主催して旭川買物公園で「第1回びっぶいちごまつり」を開催。壺屋と提携し「びっぶ富万十びっぶ富の里」「びっぶ苺羊羹」なども販売した。58年から農家ほ場でのイチゴ狩りも行われるようになった。

平成3年6月には、実行委員組織で主催した「第1回ストロベリーフェスタ・イン・びっぶ」が開催され、約4500人の観客らで会場が埋め尽くされた。

(参考・比布町史)



びっぶ苺羊羹



びっ富万十「びっ富の里」



旭川買物公園での「びっぶいちごまつり」では、新鮮なイチゴを求める買い物客でにぎわった。



平成3年から始まった「ストロベリーフェスタ・イン・びっぶ」は10年間にわたり開催され、多くの観光客が押し寄せた。

発行・編集

ふるさと通信『ぴび』令和2年3月4日発行(通巻第20号)

■発行 比布町

■編集 総務企画課まちづくり推進室広報係

〒078-0392 北海道上川郡比布町北町1丁目2番1号

☎0166-85-2111(代表) 0166-85-4802(総務企画課直通)

□ホームページ <http://www.town.pippu.hokkaido.jp>

□Eメール ichigo@town.pippu.hokkaido.jp



高設栽培の「紅ほっぺ」

まちの人口

総数 3,664人

男 1,727人

女 1,937人

世帯数 1,809世帯

■令和2年1月末日現在
住民基本台帳等登録数

比布町ふるさと通信「ぴび」は、比布を離れた人と比布を結ぶ情報紙です。

みなさまから、町外で暮らしているご家族やご友人へお届けください。